

- 問1 戦国大名が定めた法律の内容に多く見られる、「家臣同士が私的な争いを起こした場合、その理由の正当性を問わず、双方とも処罰する」という原則を何と呼びますか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
1. 目目箱 2. 連座 (縁座) 3. 喧嘩両成敗 4. 奉公と恩賞
- 問2 鎌倉時代において、3代執権の北条泰時が「御成敗式目 (貞永式目)」を制定した目的や背景を説明したものとして、最も適切な内容を選びなさい。 (2015年 岡山県公立入試 類似)
1. 平将門の乱を鎮圧した後に生じた関東地方の混乱を収めるため、貴族の法律である律令を武士にも厳格に適用することを目的とした。
2. 承久の乱のあと、新しく任命された地頭と、貴族などの荘園領主との間で土地をめぐる争いが増えたため、公正な裁判の基準を設ける必要があった。
3. 今川義元などの戦国大名が分国法を作ったことに対抗し、全国の武士が幕府に対して絶対的な忠誠を誓うための精神的な規範を示す必要があった。
4. 元寇 (モンゴル襲来) による出兵で困窮した御家人の不満を解消するため、借金を無償で帳消しにする徳政令の仕組みを全国に広める必要があった。
- 問3 戦国時代の九州において、ポルトガルやスペインとの南蛮貿易の利益を得ることを目的の一つとして、みずからキリスト教に入信し、宣教師を保護した大名を総称して何と呼びますか。 (2025年 京都府公立入試 類似)
1. 寄親 2. 戦国大名 3. 守護大名 4. キリシタン大名
- 問4 日本の歴史において、守護・地頭の設置や御成敗式目の制定が行われた時代 (鎌倉時代) の様子を説明した記述として、ふさわしくないものはどれですか。 (2018年 熊本県公立入試 類似)
1. 実力のある下の者が上の者を倒して地位を奪う、下剋上の風潮が広がった。
2. 元軍の侵攻に対し、九州の御家人たちが防戦にあたった。
3. 北条氏が執権の職に就き、幕府の政治を動かした。
4. 将軍と御家人が、土地を媒介とした御恩と奉公の主従関係を結んだ。
- 問5 戦国時代の社会的な特徴の一つである「下剋上」という現象について、その内容を正しく説明しているものはどれですか。 (2018年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 実力のある者が、それまで自分より上の身分であった者の地位を奪い取ること
2. 農民や地侍が団結して、領主に対して年貢の減免などを要求すること
3. 武士が自分の土地を直接支配するために、公家に土地を返還させること
4. 天皇を中心とした政治体制を復活させるために、幕府を倒そうとすること
- 問6 戦国大名が制定した「分国法」には、家臣同士が私的な理由で争うことを厳しく禁じる「喧嘩両成敗」の規定が多く含まれています。このような規定が多くのお大名によって導入された背景として、最も適切な理由はどれですか。 (2023年 栃木県公立入試 類似)
1. 貨幣経済が浸透し、武士が戦うことよりも商業に従事することを推奨したから。
2. 家臣同士の私闘による戦力の消耗を防ぎ、大名を中心とした組織的な団結を固めるため。
3. 家臣たちの不満を解消するために、すべての裁判を幕府の裁定に委ねる必要があったから。
4. 海外から伝来したキリスト教の教えに基づき、平和な社会を築くことが求められたから。
- 問7 南蛮貿易によってもたらされた鉄砲と、当時の都市の関わりについて述べた文として、背景や理由を含めて正しく説明しているものはどれですか。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
1. 鉄砲の製造に必要な火薬の原料が国内で豊富に採れたため、城下町ごとくに小規模な自給自足の生産体制が整った
2. 江戸幕府の成立まで鉄砲の国内生産は禁止されていたため、長崎の出島を通じてのみ取引が行われた
3. 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地のお大名に供給された
4. 寺院が鉄砲の製造を独占したため、鉄砲の生産拠点となった都市では宗教勢力による支配が強まった
- 問8 室町時代から戦国時代にかけて見られた、実力のある下の者が上の者を倒し、その地位を奪い取るという社会的な風潮を何と呼びますか。 (2018年 秋田県公立入試 類似)
1. 寄合 2. 下請け 3. 下剋上 4. 惣村
- 問9 戦国時代、現在の島根県に位置する石見銀山は日本最大級の銀山として知られていました。この銀山の支配権をめぐる、中国地方を舞台に激しい抗争を繰り広げた戦国大名の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2026年 島根県公立入試 類似)
1. 尼子氏と毛利氏 2. 島津氏と大友氏 3. 織田氏と今川氏 4. 武田氏と上杉氏
- 問10 平安時代中期から安土桃山時代にかけて、武士が政治の主導権を握っていく過程で起きた次の4つの出来事を、発生した時期の古い順に並べたものとして正しい説明を選びなさい。 1. 平将門が関東で反乱を起こし、「新皇」と称した。 2. 平清盛が武士として初めて最高官職である太政大臣に就任した。 3. 北条泰時が、御家人の裁判の基準を明確にするため御成敗式目を制定した。 4. 織田信長が、室町幕府の将軍であった足利義昭を京都から追放した。 (2015年 岡山県公立入試 類似)
1. 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「織田信長による足利義昭の追放」→「御成敗式目の制定」
2. 「平将門の乱」→「御成敗式目の制定」→「平清盛の太政大臣就任」→「織田信長による足利義昭の追放」
3. 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」
4. 「平清盛の太政大臣就任」→「平将門の乱」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」
- 問11 石見銀山から産出された銀は、16世紀後半から17世紀初めにかけて世界の銀産出量の約3分の1を占めていたとも言われています。この銀山で生産を支え、日本の銀が国際社会へ大きな影響を与える要因となった技術的背景として正しいものを選んでください。 (2019年 和歌山県公立入試 類似)
1. 明治維新以降、フランスの技術を取り入れた官営模範工場として整備されたこと
2. 灰吹法という、鉛を用いて銀を抽出する高度な精錬技術が導入されたこと
3. 足尾銅山鉛毒事件を教訓にした、公害を出さない最新の濾過技術が開発されたこと
4. たたら吹きという、鉄を精錬するための日本独自の製鉄法が応用されたこと
- 問12 日本の歴史における13世紀から16世紀にかけての外交や出来事について、年代の古い順 (先に起きた順) に並べたものとして正しい組み合わせはどれですか。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
1. 北九州の博多湾などに元軍が2度 にわたり襲来した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。
2. 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ 北九州の博多湾などに元軍が2度 にわたり襲来した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。
3. フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。→ 北九州の博多湾などに元軍が2度 にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。
4. 北九州の博多湾などに元軍が2度 にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 喧嘩両成敗	戦国大名にとって、領国内の家臣同士が私的な理由で武力衝突を起こすことは、領土の防衛力を低下させる大きなリスクでした。そのため、個別の事情に関わらず争いそのものを厳禁し、大名による一元的な裁判権を確立するためにこの原則が多くの分国法に盛り込まれました。
問2	答え 2 承久の乱のあと、新しく任命された地頭と、貴族などの荘園領主との間で土地をめぐる争いが増えたため、公正な裁判の基準を設ける必要があった。	1221年の承久の乱によって鎌倉幕府の支配が西日本まで拡大しましたが、その結果、各地で地頭と荘園領主（公家や寺社）との間で土地管理や年貢をめぐる紛争が頻発しました。北条泰時は、武家社会の慣習に基づいた公平な裁判を行うための明確な基準として1232年に御成敗式目を定めました。これは武家独自の最初の法典であり、後の武家政治の大きな手本となりました。徳政令は13世紀末の永仁の徳政令が有名ですが、御成敗式目の制定目的とは異なります。
問3	答え 4 キリシタン大名	九州や近畿地方の戦国大名の中には、貿易による経済的利益や、鉄砲・火薬などの軍事物資を入手するために宣教師を保護し、自らも洗礼を受ける者が現れました。このような大名はキリシタン大名と呼ばれ、代表的な人物に大友宗麟などがいます。
問4	答え 1 実力のある下の者が上の者を倒して地位を奪う、下剋上の風潮が広がった。	鎌倉時代は將軍と御家人の主従関係や、御成敗式目による武士社会の秩序が重んじられた時代です。設問にある「下剋上」は、室町時代末期から戦国時代にかけて顕著になった社会風潮であり、鎌倉時代の特徴ではありません。この時期には応仁の乱などをきっかけに幕府の権威が衰え、実力主義の時代へと移行していきました。
問5	答え 1 実力のある者が、それまで自分より上の身分であった者の地位を奪い取ること	下剋上は、中世から近世へと社会が激変する過程で現れた「実力主義」を象徴する動きです。それまでの家柄や伝統的な上下関係よりも、軍事力や経済力、政治的な手腕が重視されました。これによって、出自が低くても能力があれば一国の主（戦国大名）になれる道が開かれ、織田信長や豊臣秀吉のように、古い権威に縛られない新しい統治を行う勢力が登場する土壌となりました。
問6	答え 2 家臣同士の私闘による戦力の消耗を防ぎ、大名を中心とした組織的な団結を固めるため。	戦国時代は常に他国からの侵略のリスクがあったため、大名にとって家臣団の結束は死活問題でした。家臣同士が私的な遺恨で争い、戦力が削られることを防ぐため、分国法を通じて「争いの理由は問わず、両者を処罰する」という厳しいルールを課し、紛争の解決は大名による裁判に委ねさせることで、主君としての統制力を強めようとしたのです。
問7	答え 3 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地の大名に供給された	堺は古くから鋳物や刀剣の製造が盛んであり、その高い技術力が鉄砲の量産を支えました。また、堺は「会合衆」と呼ばれる豪商たちによる自治が行われていた自由都市であり、特定の戦国大名に完全に支配されることなく、各地の大名を顧客として鉄砲を販売することで大きな利益を上げ、さらに都市として発展しました。
問8	答え 3 下剋上	応仁の乱以降、足利將軍家や守護大名の権威が失墜する中で、各地で実力を持つ者が地位を奪う現象が目立ちました。この言葉は当時の不安定ながらも活力のある社会情勢を象徴しています。
問9	答え 1 尼子氏と毛利氏	石見銀山は現在の島根県大田市に位置し、戦国時代にはその莫大な利益を求めて周辺勢力が激しく争いました。当初は出雲国（現在の島根県東部）を拠点とした尼子氏が支配を強めていましたが、安芸国（現在の広島県）から勢力を伸ばした毛利氏がこれに挑み、長期にわたる抗争の末に毛利氏が支配権を確立しました。山梨県の武田氏や鹿児島県の島津氏は、活動拠点が異なるためこの地の直接的な支配権争いには関わっていません。
問10	答え 3 「平将門の乱」→「平清盛の太政大臣就任」→「御成敗式目の制定」→「織田信長による足利義昭の追放」	平安時代中期の10世紀に起きた平将門の乱は、武士の実力と地方勢力の台頭を象徴する出来事です。その後、12世紀後半に平清盛が平氏政権を樹立し、武士として初めて太政大臣となりました。鎌倉時代の1232年には、承久の乱後の社会混乱を収めるため北条泰時が御成敗式目を制定しました。そして戦国時代末期の1573年、織田信長が足利義昭を追放したことで室町幕府は滅亡し、中世から近世へと時代が大きく動くことになりました。
問11	答え 2 灰吹法という、鉛を用いて銀を抽出する高度な精錬技術が導入されたこと	16世紀前半に博多の商人らによって朝鮮半島から伝えられた灰吹法（はいふきほう）は、鉛を使って鉱石から銀を取り出す画期的な精錬技術でした。この技術が石見銀山に導入されたことで、不純物の少ない高品質な銀の大量生産が可能になり、日本の銀が世界経済において大きな影響力を持つことになりました。選択肢にある「たたら吹き」は鉄、「官営模範工場」は富岡製糸場などに代表される近代化の動きを指します。
問12	答え 4 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。	元軍の襲来である「元寇」は13世紀後半（鎌倉時代後半）、足利義満による「日明貿易」の開始は15世紀初め（室町時代）、そしてフランシスコ・ザビエルによる「キリスト教伝来」は1549年（戦国時代）です。それぞれ、鎌倉・室町・戦国の各時代を象徴する重大な外交上の出来事です。